236 熱帯から亜熱帯にかけて新たに得られたセンチニクバエ属 (*Boettcherisca*) の休眠性と分布

*森林敦子、林利彦、主藤千枝子、倉橋弘 (国立予防衛生研究所、昆虫医科学部)

Diapause of the flesh fly colonies of *Boettcherisca* obtained from the tropical and subtropical regions.

A. Moribayashi, T. Hayashi, C. Syudou, H. Kurahashi (Dept. Medical Entomology, National Institute of Health)

センチニクバエ属は、アジア、オセアニアの熱帯から温帯にかけて広く分布している。この属は、*karnyi*-, *septentrionalis*-, *peregrina*-groupの3つに分けられ、その中で温帯に分布する種は、蛹のステージで休眠することが知られている。我々は、今までにアジア、オセアニアの各地から得られたこれらのセンチニクバエ属、約40コロニーの休眠性および臨界日長を調べたが、今回新たに熱帯から亜熱帯にかけて4種6コロニーのものについて調べた。ベトナムからインドセンチニクバエ1種1コロニー、パプアニューギニアからセンチニクバエ、パプアセンチニクバエ2種、2コロニー、インドネシアのスラウェシからセレベスセンチニクバエ1種2コロニー、沖縄の那覇からセンチニクバエ1種1コロニーである。インドネシアからのセレベスセンチニクバエは、2コロニーとも休眠性は認められなかった。パプアニューギニアからのセンチニクバエの1コロニーに休眠性が9 L 13 Dで35%確認された。那覇からのセンチニクバエは、11 L 13 Dで12%のものが休眠した。新たに得られた結果と今までに得られた知見をもとにセンチニクバエ属の休眠性と分布との関連について考察する。

237 イエバエを利用した鶏糞の分解処理 (3) イエバエ諸系統の生態的特性の比較

稲岡 徹 (竹中工務店・技術研究所)

Degradation of chicken feces by using house fly larvae (3)

Comparison of ecological characteristics among several strains of house fly.

Inaoka, T. (Takenaka Research and Development Institute)

イエバエを用いた鶏糞の分解処理と、イエバエ虫体の家畜飼料原料としての利用を目的として、イエバエ6系統の生態的特性を比較した。ライフサイクルの長さは25℃で、系統により、 $13.5 \pm 1.3 \sim 15.4 \pm 1.0$ 日 (平均±標準偏差)、蛹からの羽化率 $69.4 \pm 0.9 \sim 88.1 \pm 13.3\%$ 、♀比率 $40.1 \pm 6.6 \sim 52.4 \pm 10.0\%$ と系統間に差が見られた。鶏糞分解後の終齢幼虫は、蛹化直前に、幼虫飼育容器に僅かに隙間を開けた蓋をすることで、効率的に回収できる。この方法で系統間の幼虫回収率を比較すると、与えた鶏糞重量に対して、 $2.9 \pm 1.9 \sim 3.8 \pm 1.5\%$ であった。入手したイエバエの中では虫体回収率が最高で、他の生態的特性でも成績の良い千葉県白子産の系統が、鶏糞の分解処理には最も適していると判断された。